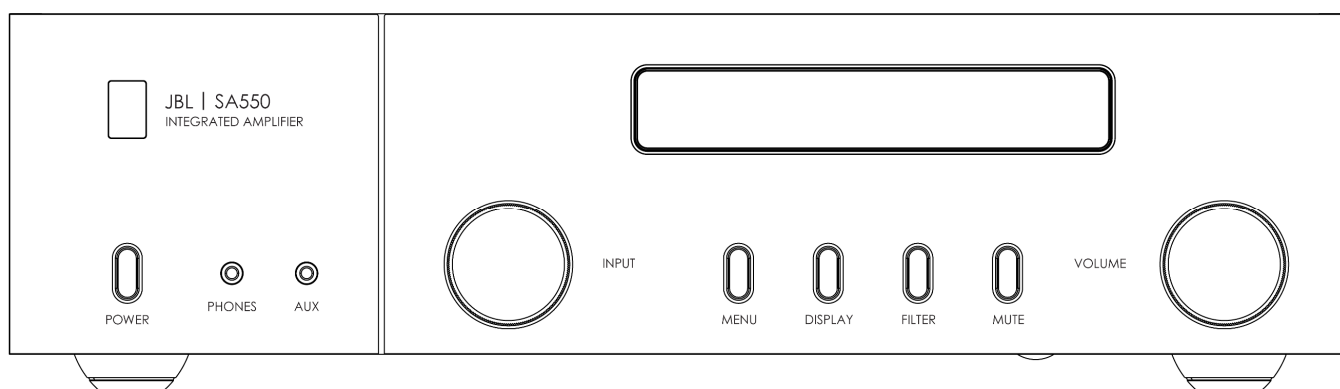




## SA550 Classic - Bluetooth

搭載プリメインアンプ

オーナーズマニュアル



## 安全に関する重要な注意事項

1. 本説明書をお読みください。
2. 本説明書を保管しておいてください。
3. 警告をすべて守ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 乾いた布を使って清掃してください。
6. 換気口をふさがないでください。メーカーの指示に従って本機を設置してください。
7. 熱源（ラジエーターや電熱器やストーブなど、熱を発生する機器）の近くに設置しないでください。
8. 極性付きまたは接地タイプのプラグの安全機能を損なうな使い方はおやめください。極性付きプラグの片方の端子は、もう一方の端子より幅が広がっています。接地タイプのプラグには、2つの端子と、接地端子が装着されています。幅広端子や接地端子は、お客様の安全のために装着されています。付属のプラグがコンセントに合わない場合は、電気工事に相談して、不適切なコンセントを交換してください。
9. 電源ケーブルの上を歩いたり挟まないようにしてください。特に、プラグ、テーブルタップ、および機器のケーブル出口で電源ケーブルを保護してください。
10. メーカーより指定された付属品やアクセサリのみをお使いください。



11. メーカーが指定している、または、本器専用で別売されているカート、・スタンド、三脚、ブラケット、テーブルと一緒に使用してください。カートを使用する場合、カート/機器と一緒に移動している際に転倒させてけがをしないように注意してください。
12. 稲妻が光ったり、長期間使用しないときは、本器の電源ケーブルを抜いてください。
13. 整備はすべて有資格者に依頼してください。電源ケーブルやプラグが破損した場合、液体をこぼした場合、中に異物が入った場合、雨や湿気で濡れた場合、正常に動作しない場合、落下させた場合など、何らかの損傷が生じた場合には、修理が必要となります。
14. 本機を交流電源から完全に切断するには、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
15. 電源コードの電源プラグは、容易に操作できる状態にしておく必要があります。
16. 本機には、メーカーから提供される電源ケーブルや充電ケーブルのみを使用してください。

以下の手順は防水型デバイスには適用されない場合があります。防水に関する詳しい説明については、機器のユーザーマニュアルまたはクイックスタートガイドを参照してください。

- 本器を水周りで使用しないでください。
- 本機に水滴や飛沫がかからないようにしてください。また、本機の上に、花瓶など液体の入った物を置かないでください。

**警告:** 火災や感電を防止するため、本機を雨や水で濡らさないでください。

警告	
感電の危険があります。開かないでください。	
	製品上のこの記号は、筐体内に、絶縁されていない危険な高電圧が存在し、感電の危険があることを意味しています。
	製品上のこの記号は、本ガイドに重要な操作手順やメンテナンス手順が記載されていることを意味しています。

安全上の注意事項の完全リストについては、**JBL.com** の製品ページにアクセスし、安全シートをダウンロードしてください。

### クラス II 機器

本装置はクラス II（二重絶縁）電気機器です。電氣的アースへの安全接続を必要としない方法で設計されています。

# 目次

安全に関する重要な注意事項.....	2
クラス II 機器.....	2
目次.....	3
JBL 製品をお選びいただきありがとうございます.....	4
同梱品.....	4
本器の配置.....	5
フロントパネル.....	6
リアパネル.....	7
リモコン.....	8
スピーカーの接続.....	9
重要なヒント.....	9
BLUETOOTH の操作.....	10
音量調節.....	10
トランスポート制御.....	10
操作.....	11
電源.....	11
スタンバイ.....	11
オートスタンバイ.....	11
入力の選択.....	11
フォノ入力.....	11
USB.....	12
ヘッドフォン.....	12
バランスコントロール.....	12
プロセッサーモード.....	12
メニュー.....	13
メニューツリー.....	13
トラブルシューティング.....	14
仕様.....	15

## JBL 製品をお選びいただきありがとうございます

JBL は、75 年以上にわたり、世界中のコンサート、スタジオ、劇場、家庭向けに最高級オーディオ機器を製造し続けてきました。JBL は、一流のレコーディングアーティストやサウンドエンジニアから信頼されているブランドです。

JBL SA550 は、今後数十年にわたって高信頼の増幅が行えるように設計されており、優れた音楽性を有しているため、音楽を最大限に楽しむことができます。

本書には SA550 の設置と使用方法、ならびに、高度な機能に関する情報が記載されています。

万が一障害が発生した場合、または技術サポートが必要な場合は、メール [luxurysupport@harman.com](mailto:luxurysupport@harman.com) もしくは電話 +44 (0) 1707 668012 または +1 888 6914 171 で、専門サポートチームにご連絡ください。故障が発生した場合、もしくは JBL 製品に関する詳しい情報が必要になった場合、当社販売店ネットワークが喜んでお手伝いいたします。詳細については JBL のサイト [JBL.com](http://JBL.com) をご覧ください。

### 同梱品

- JBL SA550 Classic プリメインアンプ
- 赤外線リモコン
- リモコン用単 4 電池 2 本
- 地域別の電源コード
- クイックスタートガイド
- 安全性と法令順守に関する文書

## 本器の配置

- 本アンプは、直射日光や熱源や湿気を避けて、丈夫で平坦な水平面に設置してください。
- SA550 は、パワーアンプなどの熱源の上に置かないでください。
- 本アンプは、十分な換気が行える場合を除き、本箱やキャビネットなどの密閉空間に設置しないでください。SA550 は、通常の動作中、やや暖かい程度の温度で動作するように設計されています。
- 放熱器周辺の空気流が妨げられてアンプが過熱する恐れがありますから、本アンプの上に他のコンポーネントなどの物体を置かないでください（アンプの上に置いた機器も高温になります）。
- リモコンの動作が妨げられますから、フロントパネルディスプレイの右側にあるリモコン受光器の前に障害物を置かないでください。
- 本器の上にレコードプレーヤーを置かないでください。レコードプレーヤーは主電源から発生する雑音に対して大変敏感です。電源とレコードプレーヤーとの間が近すぎると、再生音にハム音が混ざって聞こえるようになります。
- 本器の正常な動作は、強力な電磁妨害によって妨げられることがあります。これが発生した場合、電源ボタンで本器をリセットするか、本器を別の場所に移動してください。



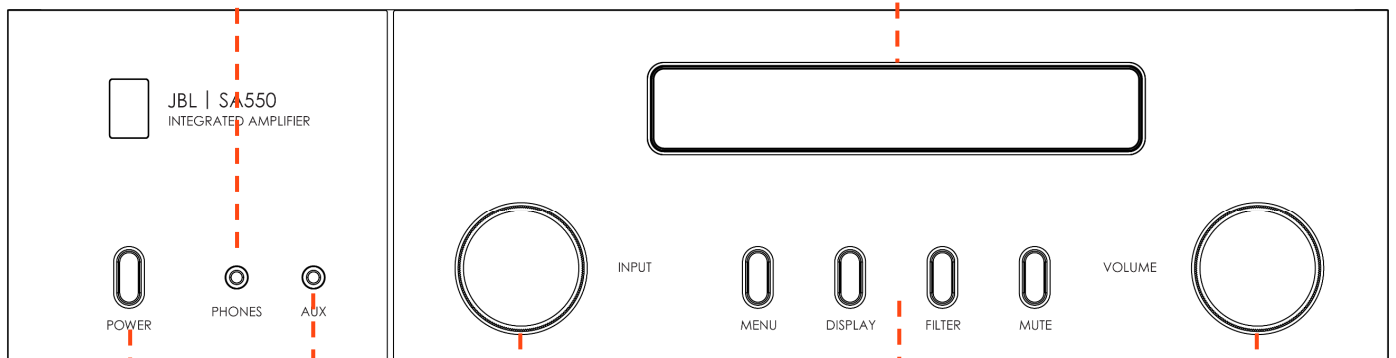
SA550は通常の使用時にも多少発熱しますが、大音量で長時間使用すると、アンプの筐体が手で触れなくなるほど高温になることがあります。

# フロントパネル

## ヘッドフォン出力

3.5mm アナログヘッド  
フォン出力ソケット

## ディスプレイ



## スタンバイボタン

スタンバイモードに切り替えたり、スタンバイモードを解除します

## 入力セレクター

再生したいオーディオ入力を選択します

## 音量調節

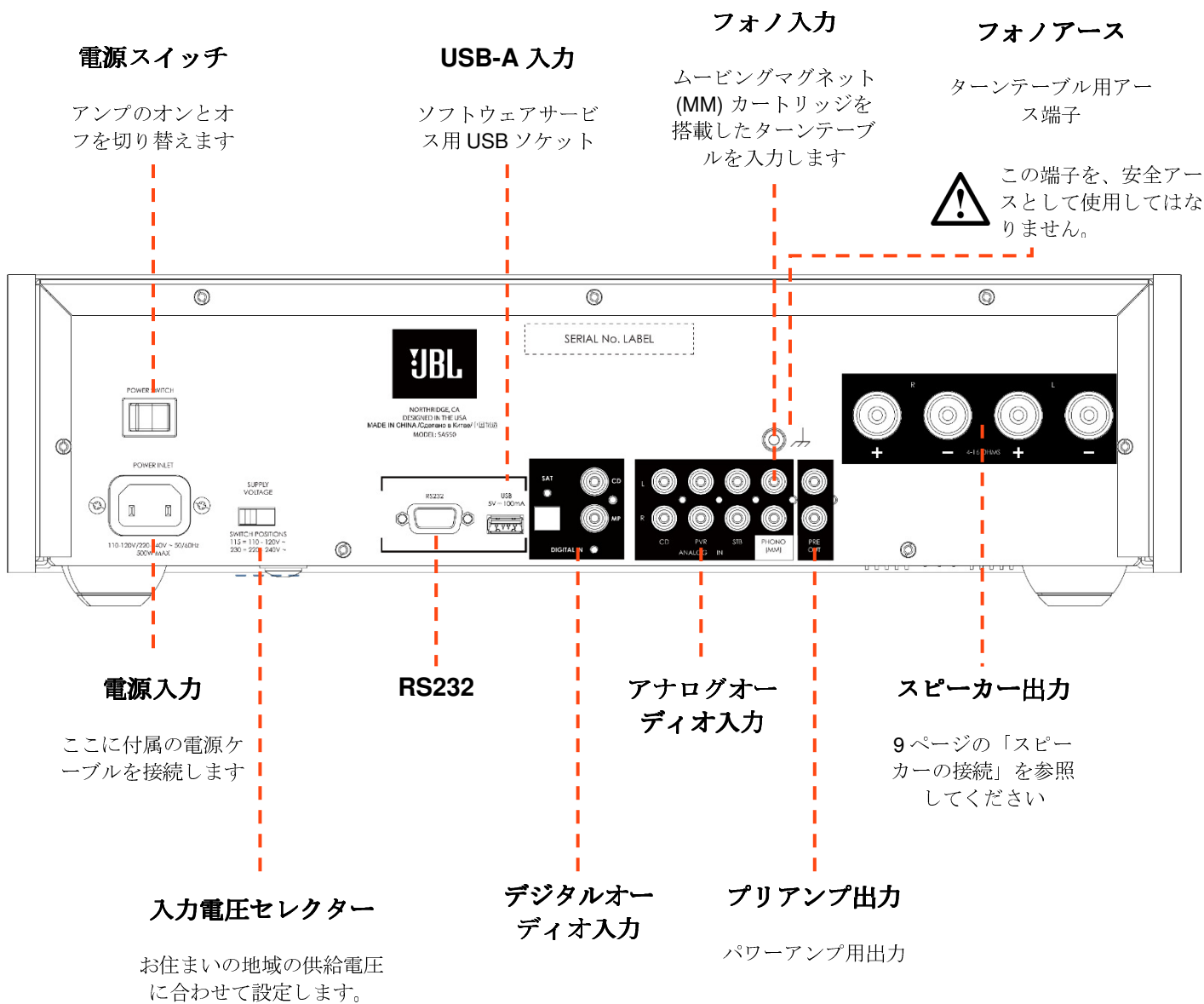
## 外部入力

3.5mm アナログステレオ入力ソケット

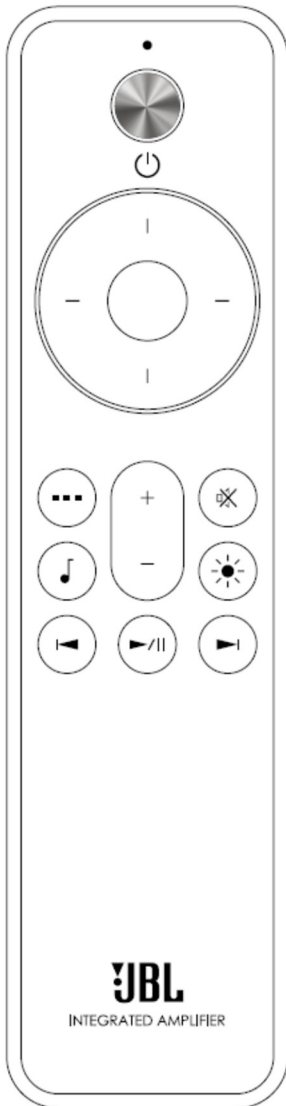
### フロントパネルのボタン

フロントパネルのボタン	
MENU	設定メニューに移動します - 13 ページを参照
DISPLAY	ディスプレイを減光したり消すことができます
FILTER	種々のデジタルオーディオフィルターを選択します
MUTE	オーディオ出力のミュートとミュート解除

# リアパネル



## リモコン



	スタンバイ動作の切り替え
	メニューナビゲーション 中央のボタンを押して選択
	音量調節
	ミュートのオンまたはオフ
	ディスプレイの明るさ
	トランスポートキー (再生/一時停止、前のトラック/次のトラックにスキップ)
	メニューボタン
	音楽情報ボタン

注意：誤った電池を使用すると、危険な結果が生じる恐れがあります。使い古した電池と新品の電池を混ぜて使用しないでください。異なる電池を混ぜて使用しないでください。見た目は似ていても、電池が異なると電圧が異なることがあります。正しい方向に電池が挿入されていることを確認してください。

1 か月以上使用しない場合、機器から電池を外しておいてください。使用済みの電池は、お住まいの国や地方自治体の定めた規則に従って廃棄してください。



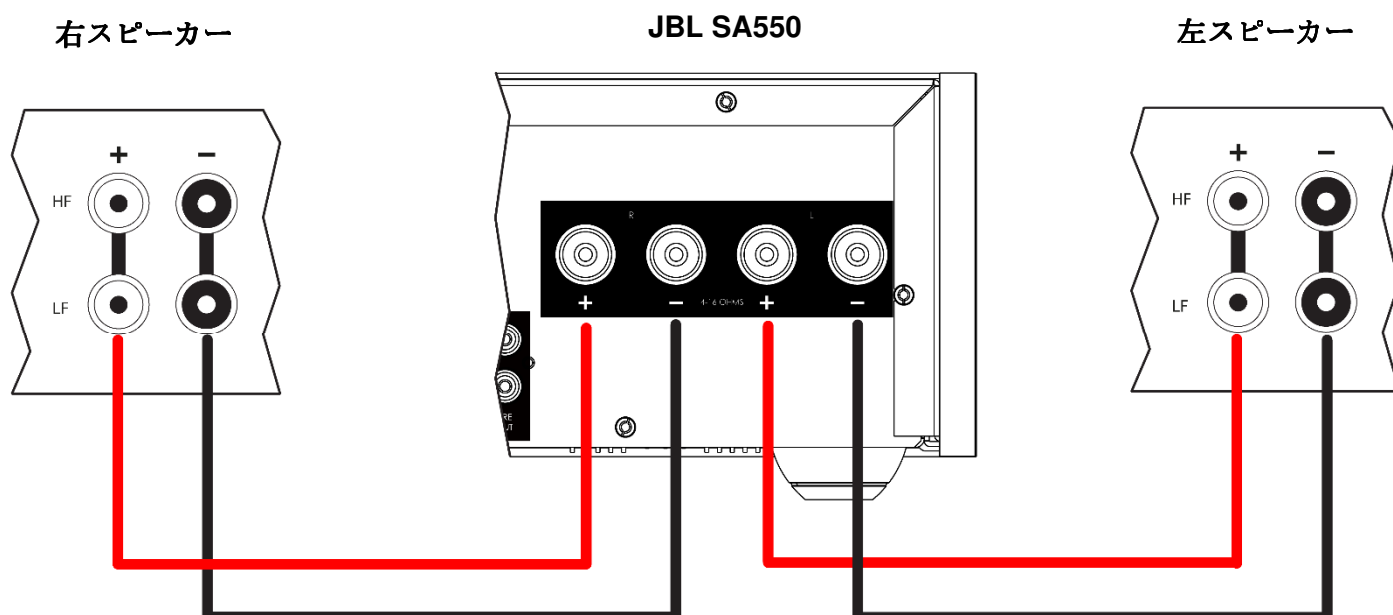
## スピーカーの接続

ステップ 1. 本アンプに電源が接続されていないことを確認します。

ステップ 2. スピーカーケーブルを使用して、アンプの赤い右スピーカー出力 (R+) 陽極端子を、右スピーカーの陽極 (+) 端子に接続します。

ステップ 3. アンプの黒い右スピーカー出力 (R-) 陰極端子を、右スピーカーの陰極 (-) 端子に接続します。

ステップ 4. アンプの L+ および L- のラベルの付いた端子を使用して、左スピーカーでも同じ操作を繰り返します。



### 重要なヒント

- すべての接続をよく確認してください。ケーブルやワイヤーの裸線同士が接触していないか、また、アンプのシャーシと接触（この場合短絡状態になります）していないか、また、陽極 (+) と陽極、陰極 (-) と陰極が接続されているか、確認します。必ず、アンプとスピーカーの両方の配線を確認してください。
- 接続後：入力信号がない状態でアンプのスイッチを入れ、音量を最小まで下げます。ソース信号を選択し、間違った接続によって大きな音が出たり製品が損傷しないように、適切なりスニングレベルまでゆっくりと音量を上げてください。
- システムの接続方法についてご不明な点がございましたら、**JBL** 販売店にご遠慮なくお問い合わせください。

## Bluetooth の操作

SA550 と Bluetooth ソースデバイスをペアリングするには、ソースデバイスの Bluetooth 設定を開き、検出可能なペアリング先のデバイスをスキャンします。リストから **JBL SA550 ####** を選択します。

**初期設定** では、本アンプは、電源スイッチが入っているが別の Bluetooth デバイスに接続されていないときに検出され、ペアリングできます。**BT 入力を選択されている必要はありません**。メニューの BT Auto SW 設定を変更すると、この機能を無効にすることができます。メニューの使い方については 13 ページをご覧ください。

注意：BT Auto SW 設定が **Off** に変更されている場合、本機を BT 入力に切り替えなければ、新しいデバイスによって検出・ペアリングされないため、音楽を再生することはできません。

デバイスは、数値コードを共有せずにアンプとペアリングされます。

本アンプは 5 台のデバイスとのペアリングを呼び出すことができます。既に 5 台のデバイスがペアリングされた状態で、新しいデバイスとペアリングしようとした場合、最も古いペアリングが解除されてから、この新しいデバイスがペアリングされます。

### 音量調節

Bluetooth で音楽を再生する場合、接続したデバイスからアンプの音量をコントロールできます。ポータブルデバイスにはボリュームスライダーが付いていることが多いため、誤って過大な音量が出力されないように、本アンプには最大音量設定が装着されています。

注意：Bluetooth の最大音量を調整するには、メニューで **BT Volume** 設定を調整します。デフォルトは 50 です。メニューの使い方については 13 ページをご覧ください。

### トランスポート制御

リモコンの    ボタンを使用して、デバイスの音楽再生を制御します。

# 操作

## 電源

リアパネルの電源スイッチで、アンプの電源のオンオフを切り替えます。接続が完了したら、アンプの電源を入れます。

### スタンバイ

フロントパネルの **Standby** ボタンを押すと、アンプの**スタンバイ**と**オン**（動作）が切り替わります。

### オートスタンバイ

初期設定では、本アンプは、20 分間オーディオを再生しなかったり操作が行われなかった場合に、自動的にスタンバイに切り替わるよう設計されています。これは国際的な電力消費規制を満たすためです。これはメニューで変更できます。メニューの使い方については 13 ページをご覧ください。

## 入力の選択

オーディオソースは、フロントパネルの INPUT セレクターまたはリモコンで選択できます。いずれの場合も、ソース名は入力ソケットのラベルに対応します。

接続可能な入力：

- BT (Bluetooth)
- フォノ (アナログ - ムービングマグネットカートリッジを装着したターンテーブル)
- AUX (アナログ - フロント入力)
- CD (アナログ)
- PVR (アナログ)
- STB (アナログ)
- CD Digital (デジタル)
- SAT Digital (デジタル)
- MP Digital (デジタル)

注意：デジタル入力はステレオ (PCM) オーディオのみに対応します。マルチチャンネルオーディオやエンコードオーディオは再生できません。

## フォノ入力

フォノ入力には、レコードが再生できるように、ターンテーブルの MM (ムービングマグネット) カートリッジに対応したプリアンプが接続されています。

この入力には、**絶対に**ターンテーブル以外の入力ソースを接続しないでください。ターンテーブル以外の入力ソースを接続すると、アンプとスピーカーの両方に重大な損傷が発生します。その場合保証は適用されません。

## USB

本アンプの USB ソケットは、ソフトウェアのアップデートのみに使用されます。音声入力ではありません。

## ヘッドフォン

ヘッドフォンソケット (PHONES) には、3.5 mm ステレオジャックの付いたヘッドフォンを接続できます。初期設定では、ヘッドフォンを差し込むとプリアンプ出力とスピーカーがミュートされます。

注意：セットアップメニューの **Headphone Override** 機能を使用すると、ヘッドフォンを差し込んでもプリアンプ出力とスピーカーはミュートされません。メニューの使い方については 13 ページをご覧ください。

## バランスコントロール


メニューのバランスコントロールを使用して、左右のスピーカーの音のバランスを調整できます。メニューの使い方については 13 ページをご覧ください。

## プロセッサーモード

プロセッサーモードでは、1 つの入力で音量が固定されます。これは、任意のアナログ入力 (Phono を除く) に割り当てることができます。このモードでは、ホームシネマと 2 チャンネルリスニングのコンビネーション環境で、本機を AV レシーバーと一緒に使用することができます。

入力と音量レベルはメニューで設定できます。メニューの使い方については 13 ページをご覧ください。

## メニュー

アンプの MENU ボタンまたはリモコンの  を押します。

Input および Volume コントロールを使用してメニューをナビゲートするか、リモコンのナビゲーションボタンを使用します。

### メニューツリー

Display	ディスプレイの明るさを選択します。初期設定は <b>Full</b> です。
Balance	左右の出力バランスを設定します。
Phones Ovr	ヘッドフォンが接続されているときにスピーカー出力とプリアウトをミュートするかどうかコントロールします。初期設定は <b>Off</b> (スピーカーがミュートされる) です。On = スピーカーのミュートが解除されます。
Timeout	オートスタンバイになるまでの時間です。無効にするには <b>Off</b> を選択します。初期設定は <b>20m</b> です。
BT Auto Sw	BT デバイスが再生を開始すると、自動的に BT 入力を選択されます。初期設定は <b>On</b> です。
BT Volume	BT 入力の最大音量を設定します。初期設定は <b>40</b> です。
PM Input	固定音量の入力を選択します。初期設定は <b>None</b> です。
PM Volume	固定音量入力の音量を設定します。初期設定は <b>40</b> です。
Filter	オプションから、デジタル入力フィルターを選択します。初期設定は <b>Apodizing</b> です。
PLL (input)	デジタルソースデバイスのクロックに対する感度を調整します。ほとんどのソースでは Normal が適しています。ノイズが出たりオーディオ信号が妨害される場合 (テレビやセットトップボックスなど、ジッターの多いソースで発生する可能性が高い) にも、WIDE を選択してください。初期設定は <b>Normal</b> です。
System Code	アンプのリモートコマンドがご家庭内の別のデバイスと競合する場合は、IR コードセットを変更してください。この設定を変更しても、リモートハンドセットには影響しません。初期設定は <b>16</b> です。
Version	本アンプのソフトウェアバージョンを表示します。
System Update	USB コネクターからソフトウェアアップデートを開始します。
System Reset	工場出荷時のデフォルト設定を復元します。
BT Reset	工場出荷時の設定を <b>Bluetooth</b> のみに復元します。このとき、保存されているペアリングがすべて解除されます。
RS232 Stdby	アンプがスタンバイ状態のときに RS232 が動作します。初期設定は <b>Off</b> です。

# トラブルシューティング

問題	以下を確認
音が出ない	<p>アンプが電源に正しく接続され、電源スイッチが入っていますか？</p> <p>オーディオソースが正しく接続され、正しい入力を選択されていますか？</p> <p>アンプがミュートされていませんか？</p> <p>アンプが保護モード（下に説明があります）になっていませんか？</p>
不意に音が出なくなった	<p>アンプが保護モードになっている可能性があります。フロントパネルのLEDは、不具合のタイプを表示しています：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 青で点滅：本器内部の温度が危険なレベルまで達しています。アンプの温度が下がるまで待ちます。</li> <li>▪ オレンジ色で点滅：アンプが過負荷（DCオフセット）を検出しました。</li> <li>▪ 赤で点滅：アンプが、スピーカーの短絡を検出しています。スピーカーケーブルをすべて点検して、互いに接触していないか確認してください。この故障は、スピーカーの接続に、末端未処理ケーブルを使用した場合によく起こります。</li> </ul> <p>スピーカーへの出力電力が停止するように、アンプの電源が自動的に切れます。アンプを引き続き使用するには、不具合を修復し、リアパネルの電源スイッチでアンプの電源を一旦オフにしてから、再度オンにする必要があります。</p>
アンプがリモコンに反応しません	<p>リモコンに新品の電池が入っていますか？</p> <p>リモコンとアンプの間に障害物がなく、リモコンがアンプの窓を向いていますか？</p>
フロントパネルディスプレイに何も表示されない	<p>アンプが電源に正しく接続され、電源スイッチが入っていますか？</p> <p>アンプがスタンバイ状態になっていませんか？</p> <p>ディスプレイが「Off」で暗くなっていませんか？</p> <p>リモコンの  ボタンを押します。</p>
アナログ入力でハムが出る	<p>すべてのケーブルの接触が良好であることを確認してください。</p> <p>コネクターからケーブルを一旦抜いて、もう一度完全に差し込んでみます（これを実行する前に電源を切ってください）。</p> <p>ソースの接続を外すとハム音が止まる場合は、ケーブル、もしくは、ケーブルの接続先のソースデバイスに問題がある可能性があります。</p>

# 仕様

チャンネルあたりの連続出力（高調波歪0.5%）		
両チャンネル駆動、8Ω、20Hz～20kHz	90W	
両チャンネル駆動、4Ω、1kHzにて	150W	
高調波歪、出力80%、8Ω、1kHzにて	0.002%	
フォノ入力		
フォノ入力	ムービングマグネット（MM）	
入力感度（1kHzにて）	5mV	
入力インピーダンス	47kΩ + 100pF	
周波数応答（RIAA曲線に対して）	20Hz～20kHz ± 1dB	
SN比（A重み付け）50W、入力5mVにて	80dB	
オーバーロードマージン、5mV、1kHzにて	21dB	
ライン入力		
公称感度	1V	
入力インピーダンス	10kΩ	
最大入力	6Vrms	
周波数応答	20Hz～20kHz ± 0.2dB	
SN比（A重み付け）50W、入力1Vにて	106dB	
デジタル入力		
DAC	ESS9038K2M	
周波数応答	20Hz～20kHz ± 0.05dB	
サポートされるサンプリング レート	光学	32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz
	同軸	32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz
ビット深度	16ビット～24ビット	
全高調波歪み + ノイズ	0.0007%	
SN比（A重み付け）	115dB	
プリアンプ出力		
公称出力レベル	630mV	
出力インピーダンス	230Ω	
ヘッドフォン出力		
負荷範囲	16Ω～2kΩ	
出力インピーダンス	1Ω	
600Ωに対する最大出力レベル	5Vrms	
全般		
主電圧	100Vまたは110～120Vまたは220～240V、50～60Hz	
最大消費電力	500W	
寸法（mm）（脚、コントロールノブ、コネクタを含む）	幅448×高さ124×奥行321	
本体重量	11.2kg	
梱包重量	14.0kg	